

特別支援学級担任者の職務と専門性の向上に関する研究

小学校特別支援学級（自閉症・情緒障害）における教育実践の M-GTA 分析結果より

○高木由希

竹林地毅

（新潟県立佐渡特別支援学校）

（広島大学大学院教育学研究科）

KEY WORDS: 特別支援学級 参与観察 専門性向上

（目的）

特別支援学級担任者（以下、担任者とする。）の専門性の向上については、これまで様々な課題が指摘されてきた。しかし、これまで担任者の日々の教育実践の実際から、担任者の職務と専門性の向上について論じた研究は少ない。

そこで、本研究では、小学校特別支援学級（自閉症・情緒障害）における参与観察により担任者の職務と専門性向上について考察することを目的とした。

（方法）

- (1) 対象者：A 市立 B 小学校特別支援学級（自閉症・情緒障害）担任者、C 市立 D 小学校特別支援学級（自閉症・情緒障害）担任者の 2 名
- (2) 調査内容：担任者の職務、特に特別支援学級の児童への関わり、他の教員との連携。
- (3) 分析方法：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、M-GTA とする。）を用いた。対象の観察事例は計 299 例、分析焦点者は「担任者」、分析テーマは「担任者の日々の職務内容と職務遂行に影響を与える教育的信念」とした。
- (4) 調査期間：平成 28 年 4 月～7 月
- (5) 対象者への説明・承諾：対象者 2 名及び所属長には、調査開始前に、研究の趣旨、個人情報の取り扱い等、口頭及び書面で説明し、承諾を得ている。

（結果）

参与観察結果について、【 】は概念名、《 》はサブカテゴリー名、< >はカテゴリー名、{ }はコアカテゴリー名、「 」は具体例を示す。

（1）B 小学校担任者

観察事例 230 例より 31 の概念と 1 つのコアカテゴリー、3 つのカテゴリー、9 つのサブカテゴリーが生成された。

1) 概念の生成

担任者の児童への指導場面事例に着目した。「集中していない児童に対して、『時間がもったいないよ』と声をかける」という事例について、児童に適切に行動できるように関わっている内容であると考え、【適切な行動への促し】という概念を生成した。

次に、担任者が支援員と関わる事例に着目し、「支援員より、連絡帳の形式の理由について伝えられる」という事例について、担任者が必要とする情報が共有されている内容と捉え、【情報の共有】という概念を生成した。

他の事例についても同様の方法で概念の生成を行った。また、一度概念を生成した事例についても検討を繰り返し、解釈に偏りが無いかを確認し、整理を行った。

2) 概念の同士の関係性の検討とカテゴリーへの集約

生成された 31 の概念について概念同士の関係性を検討し、その上でカテゴリーへの集約を行った。

【児童の不安、体調の気遣い】という担任者が児童を気に掛ける内容の概念について検討した。その結果、【児童の休息時間の設定】、【失敗の受け止め】が児童の安心を生み出す担任者の児童へのかかわりという点で類似していると考え、カテゴリー化し、《安心させる対応》と命名した。

また、【注意獲得行動】という児童が担任者の注意を獲得

しようとする内容の概念については、【児童の反発（行動）】、【児童の反発（言葉）】が、担任者の指導の後の反応という点で類似していると考え、カテゴリー化し、《指導に対する児童の反応》とした。また、影響を及ぼすカテゴリーとして、《正す指導》を位置づけた。

以上のように、他の概念についても同様にカテゴリーへの集約を行った。

3) カテゴリー間の関係性の検討と結果図の作成

B 小学校担任者の職務は、<担任者の児童観>を基盤として、{児童への一貫したかかわり}<と児童が安心して生活できる学級・学校づくり>の 2 点により整理された。

{児童への一貫したかかわり}は、児童に応じた《安心させる対応》等の<児童の“今”を大切にする>姿勢や、<個々の実態を踏まえ、自立した児童を目指す>姿勢によって成り立ち、担任者と児童間の信頼関係の構築につながると考えられる。児童が担任者に抱く信頼感は、【児童発信の相談】を生み出し、《周囲の大人との連携》や【保護者との連携】へとつながっていく。

<児童が安心して生活できる学級・学校づくり>は、児童間の横のつながりを意識した時間割編成等によって《学級集団を生かす》こと、他の教員とのかかわりを通して児童に《学校の一員であることの意識づけ》を進めていくことを通し、《周囲の大人との連携》も合わせて成り立つ。

（2）D 小学校担任者

観察事例 69 例より 23 の概念と 6 つのサブカテゴリーが生成された。B 小学校と同様に概念生成、生成した概念のカテゴリーへ化、結果図の作成を行った。

D 小学校担任者の職務は、6 つのサブカテゴリーが生成されたものの、それ以上の広義のカテゴリーには集約することが出来なかった。また、B 小学校担任者と同様に《安心させる対応》等の児童の学校生活を支えると思われる担任者の職務の実際も見受けられたが、偶発的なものと捉えられ、カテゴリー間関係を見いだすことはできなかった。

（考察）

参与観察記録の M-GTA による分析の結果、B 小学校担任者と D 小学校担任者の職務とでは、カテゴリー化のレベルが異なった。この差は、担任者の職務遂行が教育的信念による意味づけが可能か否かの差を示していると考えられる。

また、担任者の職務は、「①学習指導に関する職務」を支える形で「②学習指導を充実させるための職務」が位置づき、担任者の専門性は、①と②を遂行する「職務遂行力の質の高さ」で示されると考えられる。さらに、専門性の高まりは、「教育的信念」、「知識」、「技術・態度」（木原，2012）の広がりにより説明が可能であると考えられ、「教育的信念」と担任者の専門性向上は強い関連があると推察される。

今後、担任者の専門性向上を安定して図っていくためには、担任者としての経験を積み、校内外における他の担任者との出会い等を通して、振り返りを行い、自らの職務遂行の質を向上していくことができる担任者を取り巻く職場環境の検討と協働性や同僚性のある職場づくり等の具体化方策の実行が必要とされると考える。

(TAKAGI Yuki, CHIKURINJI Takeshi)